

News Letter

2016.03

Vol. 05

Contents

- 第3回意識啓発セミナー開催
- キャリアパス相談会開催
- 岡山大学MUSCAT訪問

平成27年度第3回意識啓発セミナー開催



大学での医療キャリア支援の現状と課題

平成28年2月3日（水）大分大学挟間キャンパス 卒後臨床研修センター セミナー室にて、平成27年度第3回女性医療人キャリア支援センター意識啓発セミナーを開催しました。

講師に長崎大学副学長の伊東昌子教授をお迎えし「大学での医療キャリア支援の現状と課題」と題し講演いただきました。

長崎大学での幅広い取り組みなどを、伊東先生自身の経験と共にお話いただき、大分大学でも参考にさせていただきたいものもたくさんありました。

伊東先生は「朝メール」「夜メール」という習慣をチーム内で実施されているそうで、まず朝出勤後にチーム全員に自分の今日一日の予定（仕事・作業・行動）をメールする。これが「朝メール」。

これを見ると、伊東先生に用事がある人も「この時間なら大丈夫そう」など把握出来ますし皆が情報を共有できる。そして自分でも優先順位を考え「重要性」「緊急性」を考えることにつながる。どちらでもないタスクはやる事自体を考え直すことにもつながる。

そして一日の終わりに今日の一日の実際の行動をメールする。これが「夜メール」。

こうする事で自分自身の行動の振り返りも出来る。これは、すぐに真似が出来るし良い取り組みだと感じました。

そして印象に残った言葉が「女性の活躍は、ボスと旦那で決まる」というもの。皆さん納得のお言葉に、会場は頷きと失笑が起きていました。

それぞれのワークライフバランスを良いものにするには、男性だからとか女性だからではなく社会全体で取り組んでいく問題なのです。女性は支援されるだけでなく、長期的な高い目標を持って仕事を辞めず続けて欲しいと、女性の活躍に力強いエールを送っていました。

講演後の質疑応答で「復職前と後の役職はどうされているのか」という質問には「産休や育休を取っても、なるべく同じ役職に戻れるようにして、その人のモチベーションを保てるようにしなければいけないし、そうしているはずだ」とお答えいただきました。

その他にも多くの質問があがり、元気あるセミナーとなりました。

参加者のアンケートからも「女性としてとても先生の話に勇気づけられました」「女性が必ず悩む問題だと思えます。日頃聞けないお話を聞くことができとても良かった」などの感想が寄せられました。



伊東昌子教授

皮膚科
竹尾直子助教大戸朋子
看護部長

キャリアパス相談会開催！



2月23日(火)と26日(金)に卒業臨床研修センターセミナー室で「キャリアパス相談会」を開催しました。「キャリアパス相談会」とは、医学部5年生女子と大分大学医学部附属病院で働く女性医師の交流会で、軽食をとりながら少人数のグループで進路などの相談ができる会です。学生は大学病院における臨床実習中には聞けなかった進路選択や、家庭・育児などとの両立についてなど、身近なロールモデルを多く見る機会となります。当日はお忙しい時間を調整してたくさんの女性医師の皆さんにご協力いただきました。参加した学生たちからも「この機会にいろんな話をきけて本当にありがたかったです」「とても参考になりました」「短い距離で先生方とお話できて大変良かった」などの感想をいただきました。これから近い将来女性医師として活躍するであろう女子学生に大変刺激になったようでした。また参加いただいた女性医師からも「将来に希望を持ってキラキラした学生さん達に若いパワーをもらいました」「他の先生方の働き方などをお聞き出来て私自身大変励みになりました」という言葉をいただきました。



活動報告

岡山大学医療人キャリアセンターMUSCAT
シンポジウム参加と施設訪問してきました。



岡山大学医療人キャリアセンターMUSCATの主催により、平成27年度厚生労働省女性医師キャリア支援モデル普及推進事業シンポジウム「みんなでいろんな壁について話そう、乗り越えよう！～小1、小4の壁、学童、介護について情報交換しよう～」が1月16日に開催されました。会場の岡山大学医療人キャリアセンターおかやま(MUSCAT CUBE)には約30名の女性医師及び支援担当者と数名の男性医師の参加があり、大分からは2名出席しました。シンポジウム前半に育児や介護を経験した女性医師3人の講演と名古屋大学の医師支援者による名大病院における取り組みについての講演があり、後半に6～7人に分かれてのグループワークが行われました。グループワークでは、各自の育児や介護と仕事の両立に関する問題点や対策をグループごとにディスカッションし、グループごとの発表として内容が紹介されました。ディスカッションは予定時間を超えて盛り上がり、個々の参加者の関心の高さを感じました。今回のシンポジウムは、講演とグループディスカッションを通して、支援を必要とする状況は多種多様であること、支援する側とされる側の双方の思いやりと責任が重要であること、を再認識するものでした。更に、会場2階の託児室では約15人(0歳児～小学校低学年)の利用があり、これほど多くのお子さんを連れてのシンポジウム参加がある点にも、平成17年より継続されている岡山大学での男女共同参画事業の充実と実績が感じられました。シンポジウム終了後、MUSCATセンター長をはじめ、副センター長、キャリアコーディネーターそして、名古屋大学の卒業臨床研修・キャリア形成支援センター副センター長とお話する機会を設けさせていただきました。岡山大学の先進的な取組を色々とお聴きし、大変貴重な学ぶものが多い施設訪問となりました。

